

NO.129 ドット柄の形や色彩の違いが  
視覚的印象に与える影響  
—新たなドット柄デザインの提案—

内藤研究室 A22AB040 片山葉那





## 1. はじめに

ドット柄は定番柄であり、「かわいい」印象で捉えられることが多く、表現の幅が限定されているのが現状である。

そこで本研究は、ドット柄に新たな可能性を見出すことを目的とし、ドット柄の形や色彩の違いが視覚的印象にどのような影響を与えるのかを明らかにする。最終的には、得られた視覚的印象の結果を応用し、従来のイメージに捉われない新しいドット柄の服の提案を目指す。

## 3. デザイン



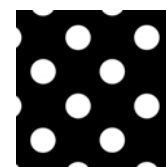
## 2. 予備実験

ドット柄の捉え方を明らかにするため女子大学生20人を被験者として、KJ法を用いた50種類のドット柄試料のグループ化を行った。

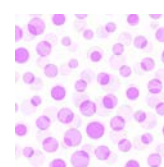
予備実験の結果から、ドット柄の形や色彩、大きさ、配色などの違いにより、多様な印象を生み出すことができるということが明らかとなった。



かわいい（一例）



シック（一例）



やさしい（一例）



4Dbox PLANS4  
で作成



テキスタイル  
プリンターで印刷

## 4. 縫製

パターン作成→裁断→パーツ縫製→パーツ縫い合わせ



シャーリング



巻きロック処理



スカートのわた入れ



スカートの縫い付け

## 5. 完成作品

一人の人間が成長の過程で経験する心境の変化や、子どもから大人へと移り変わっていく姿を表現



前面



後面

## 6. 作品評価

完成作品の印象を女子大学生10人の被験者がGoogleフォームにて評価した。前面は「かわいい」「ポップ」の評価が高く、意図した印象となった。後面は「シック」「かっこいい」の評価が高かった一方で後面には「かわいい」の評価も見られた。

## 7. おわりに

本研究ではドット柄の形や色彩の違いが視覚的印象に与える影響についてKJ法を用いて明らかにした。これらの結果に基づいて従来のイメージに捉われない、新しいドット柄の服を本作品として提案・制作した。完成作品では前面と後面は異なる印象のドット柄が現れるよう構成することで、ドット柄が持つ多様な表現の可能性を一着の服の中で示すことができた。本作品がドット柄の新たな可能性を示す一例となれば幸いである。